

風

F U U



人間が

大事にされあう風を

啓成校区に！

平成29年3月発行

啓成校区人権・同和教育推進協議会

米子市人権・同和教育研究

集会での発表を終えて

啓成校区人権・同和教育推進協議会

会長 武永健一

先日の一月十九日に市文化ホールで標記の研究集会があり、啓成校区の人権・同和教育の取り組みを発表させていただきました。

主な内容としては、人権意識の向上につながると思われる各種の公民館行事や人権講座、地域での人々のつながりを育む活動、並びに小地域懇談会、人権標語の募集等についてお話ししました。今回の発表では、多くの皆様の温かいご協力をいただいたおかげでなんとか役目を果たすことができました。厚く御礼申し上げます。今後とも地道な取り組みを続けたいと思いますので、引き続きご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

リオオリンピック報道で

思ったこと

昨年秋のオリンピックでは日本選手の活躍の様子が連日報道され、日本中が興奮、感激したことは多くの人々の記憶に新しいところです。その中で、男子体操

個人総合種目での表彰式後の共同記者会見の場面について、お話いたします。会見会場には入賞した選手達と各国の取材関係者が集まっていました。もちろん金メダルの内村選手もいました。真っ先にある外国の記者が内村選手に次のような質問をしたのです。「あなたは審判に好かれていたのではないか。」つまり、意地の悪い、悪意に満ちたものだと思います。内村選手は「まったくそんなことは考えていない。みなさん公平にジャッジしてもらっている」と答え、また、銀メダル、銅メダルの選手も口を揃えて内村選手の演技の素晴らしさをたたえました。

もし、金メダルが日本以外の大国といわれる国の選手だったら、その国の政府が黙っていないでしょうし、多くのファンによって、その記者も報道機関もインターネットが炎上するような集中攻撃を受けることでしょう。

つまり、日本になら何言っても怖くない、あるいは、相手が黄色人種だから何を言っても安心だとの気持ちがあるのではと感じます。

もちろん人によって受け止め方は様々とは思いますが、今回は私なりに感想を述べさせていただきました。

